



アヌビス編

R18
DOUJIN
Adult only



アヌビス編

R18
DOUJIN
Adult only

山羊家 罪足亭
YGGTST



ページの都合上こちらがあとがきです…。

皆さんどうも、第二作です。

今回はネームをちゃんと描きましたよ！

前回の反省を生かしつつ着々と

成長しております山羊の豚足です。

今回はイチチャラブに挑戦していますが、自分にはそんな相手がいないため、全て国産妄想100%を使用しております。

最近出不精に不安を抱えて外に出たものの一向にファンタジーでセックスだらけの異世界に飛ばされません。

やはりこんな妄想過多の危険分子を召喚する奇特な方はいないようです。

私はこのまま心臓病か脳卒中で天国に逝ってしまうのでしょうか。

怖くて夜も眠れません。

そんな病気になるまいよう僕と同じく引きこもりの方は人気の少ない夜に頑張って運動しましょう！

それでは読んで頂きありがとうございます！

山羊の豚足



ここはメジエ神殿
とある砂漠地帯に
遺っている古代遺跡です。



※大人になるための人生の修行をする旅。主に13歳〜15歳に行う事が多い。

僕は今、この神殿で
書物の整理、掃除等の雑務を
任されています。

この棚は
これで終わりだな...

タマモ(ニてましう)...

ギイッ
ふう

何故こんな事を
しているのかと言えば...

※
グランドツアーの途中、

七日間、ある事情により
砂漠を横断しなければ
ならず、その途中で遭難
し、生き倒れていたところ、
この神殿の方に助けられ、
その勝手な恩返しとして
雑用などの手伝いを
しているというわけです。



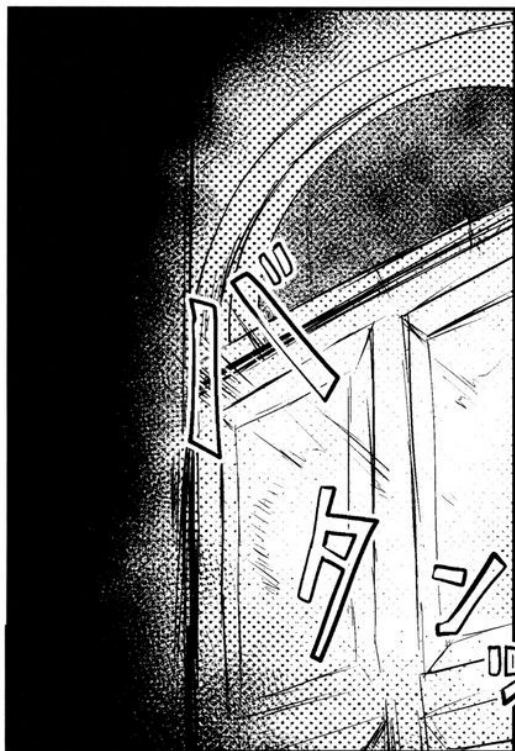
その神殿の方
と言うのは…

このアヌビス様です。

アヌビス

主にこの砂漠地帯での墓守、ミイラ作りの神であったが、国は衰退し、ほとんどの遺跡神殿から人がいなくなった今では遺跡そのもののかつての人間の墓として、管理、清掃等を行っている。





お前はまだまだ
他で学ぶことが
あるはずだろう

はい……



うんにゃ、
君はよくやっていると
思うがな？
あれは……

何か気に障る事
しちやいましたかね……？



あの子は今日は
ご機嫌ななめだにやー？

あんな言い方しなくても
よいだろうのに……

バステト様……

バステト



もっと別の問題ニヤ。

別の問題…？

身体や、心が、
あの子を求めて
私の薄い皮膚の下で
膨張していく…

何度も何度も、あの子を犯す妄想が
頭の中にあふれ出す…
その度に、無様に疼く私の身体…

あの子が欲しい…
その思いが胸の中で疼き回っていく…

私があの子を奪いたい…

誰かに奪われてしまう前に…

誰かに見初められてしまう前に…

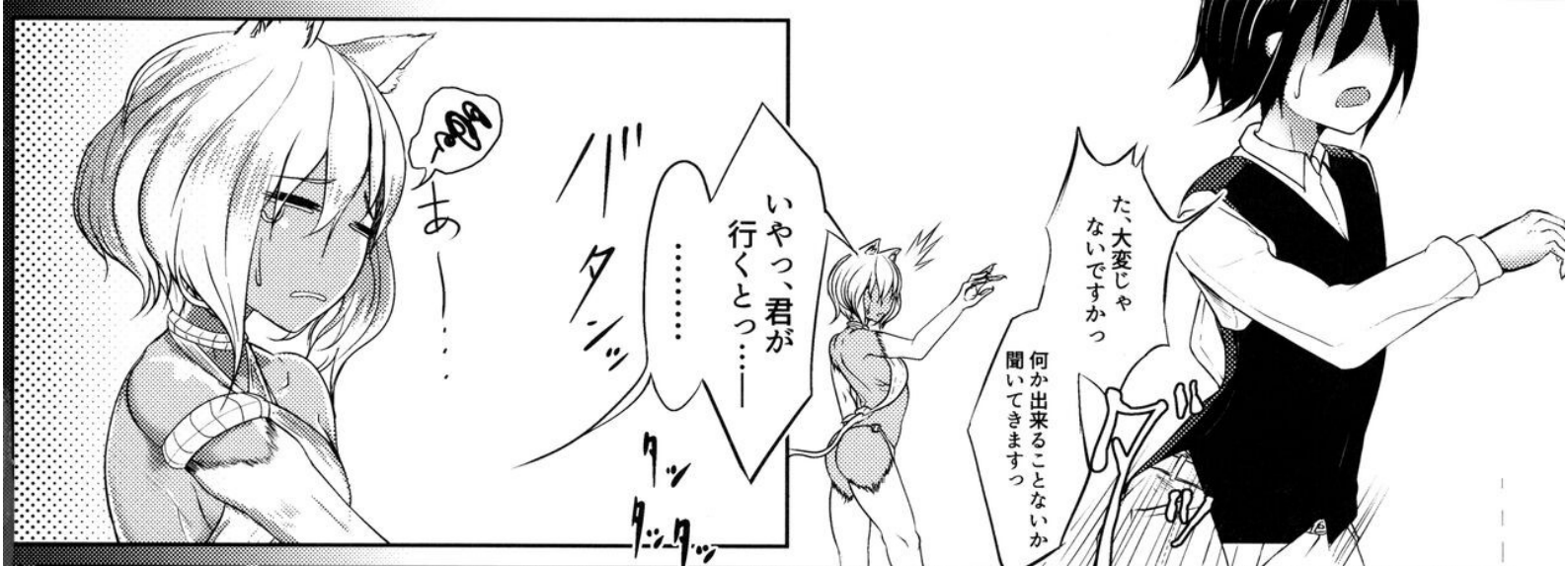
あの子の前では
数分で耐えなくなる…っ

まあ、君たちで言うところの

発情期
持病みたいなものにや

クソッ…

今回の一段とキツイ…っ





居ないのかな…?

何故

来た

わっ
!?!?



あの子の匂い…
私の縄張りにこの子の方から来てくれた…♡
私のもの…♡



あれ…?

がらん



私を…その匂いで…
その体で…誘う…からあ…ッ

こんなことは
したくなかったんだ…。
こんな姿を見せずに
遠ざけていたかった…

だが、もう我慢がきかない…ッ
お前が悪いんだぞ…ッ

小さいカラダ…♡
千切れてしまい
そんな細い手足…♡
私を守るべきもの…♡

この瞬間

私は本能を
抑えていた理性を

破壊した

非力で純朴でか弱くて…
とても可愛い私の…♡
私の大切なもの…

私を心配してきてくれた…♡
誰にも汚されていけない私のオス…♡
私だけのもの…♡

あ、アヌビス様…!?





『発情期のせいだ』

そう私は頭の中で
言い訳をした

そう思わなければ
本能に任せて

年端も行かない彼を襲った事実を
受け入れられなかったのだ

きっと目の前のこれを
鎮めれば収まる...

そう思い込んで、
理性は私の頭から
姿を消した



挟んで…

そこからは…
己の身体を全力で
使って、彼に私ができる行為の
快楽を覚えさせようとした

ねじり…

ツガイの雄雌が身体を擦り合わせて
お互いに匂いを付けるように擦りこんで…

彼の心を掴みとろうと
必死になって乳房で奉仕する…

搾り上げ…

そうやってがむしやに奉仕し、
射精させた世継ぎ汁は…

熱いな…♡

発情は消える事など無く…
色濃く私に爪痕を残す…

熱く…濃く…
私を更に魅了する…

あ…い…

嫌われる…？

いやそんなことよりも…

…っ
やっちゃんた。



し、失礼しましたっ…

今すぐなにか
拭けるものを用意しますっ…

ここから私と…

『私達』はおかしく
なってしまった…



それからというもの…

僕は暇があれば
アヌビス様を『手伝う』ように
なりました。

トイレ中にも…

小便の匂いと…
昨日の残った精子臭…

熟成されて濃ゆい匂いのせいで
頭がおかしくなってしまうそうで…

んじゅぽっ…

ふおんらにっ

汚くしれっ…じゅぶっ
いけない奴め…ぬぽっじゅちゅるう

まるで自分が便器に
されているような屈辱感…

そしてそれに悦んてしまう
雌としての従属欲…

これだけで私の子宮は
疼いてしまっていた…

先っぽを刺激されたか
と思えば…

先を刺激し…
この子の亀頭に媚びる…

しかし、我慢の利かない
犬のような私は…

直ぐに根元まで
吸い付かれ…

すぐにも喉奥まで
吸い付いてしまい…

そのまま奥まで
搾り取られて…

顔の造作も気にしない
ひよっとこ顔で…

じゅるるる

喜びに振られる
アヌビス様の尻尾に
誘われるように…

自分が媚びるオスが
恵んでくれた精液に
尻尾を振って悦び…

数分も持たずに
破裂する僕の絶頂は…

それだけで私は恥ずかしくも
達してしまいそうになり…

彼の精液を、喉を鳴らしながら
胃に落ちていく子種の感触を
身体全体で味わっていく…

彼女の喉を満たし、
胃腸へと精液を
流し込んでいきます…



『来で』しまいます…

朝という事もあり
射精が途切れる頃…

そ、そろそろ
お放しくださいっ…

大事な彼の肉竿…

放せるわけなど
あるはずもなく…

むごっ…
ぐぐぐ…
んぐ…

お…願いますっ！
早くっ…

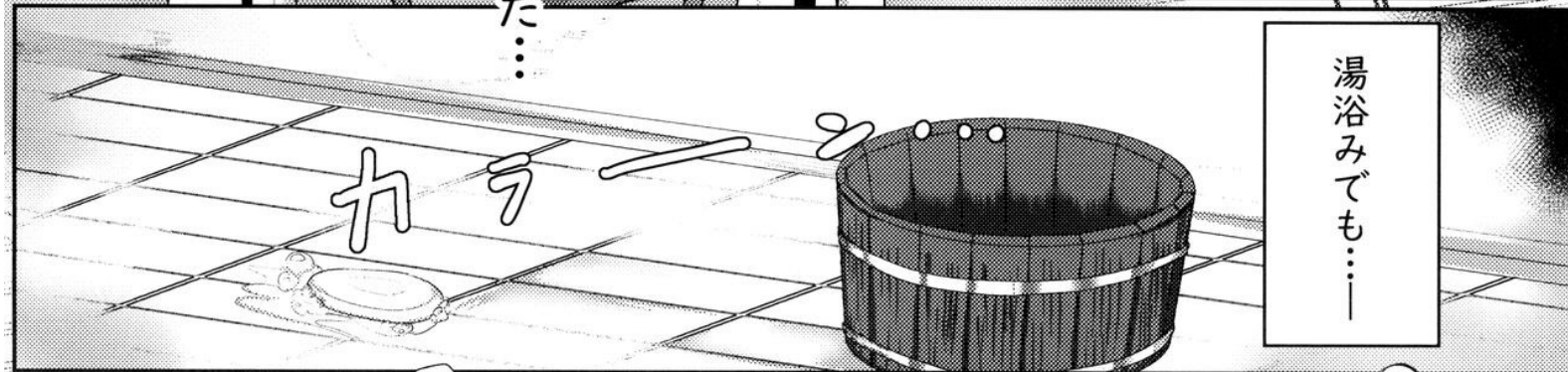
あっ

注がれる僕の汚い尿液を
まるでジュースのように
流し込んでいき…

注がれる彼の匂うほどに
濃い朝一番の小水で
喉を潤す…

喉に染み入る
彼のマーキング…

上下に動き飲み干し
ていく喉…





女みたいな声を
あげるなあ…♥

ううつ



はい…すみませ

ひやあつ



もっと近くに寄れ…
上手く洗えないだろう？



シキッ…

ビチャッ…



ボクは先にも上がりますので
アナビス様はゆつくり温まって
くださっ

おいっ！気を付け…っ



も、もうご勘弁ください…。

大丈夫ですからあ…

もう大丈夫です…



…まったく…
お前は危ない奴だ…

ごめんなさい…

おっちょこちよいで
危なっかしくて…

これは私が離れたらけがを
してしまいそうだな…？

これは勝手に
どこかに行かないように…
『離れられない事情』を…

作ってしまったほうが
よさそうだ…♥

うっ…あっ…♥

丁度、こゝも私と離れたくないと
言っておるようだし…な…♥

あうっ…♥

ぐちゃ♥



それから…

もうお互いの理性を
投げ捨てて…

滅茶苦茶に
蕩け合っていた



…んっ…ふうん…
ちゅう…ちゅうっ♡

…れりゅっ…んくう
じゅう…ちゅきゅっ♡
じゅるっ…♡

彼は最初は
形だけの抵抗を
見せていたが…

ちゅるっ…にちゅう♡
…れぶっ…ちゅう♡

熱い蒸気の中、どちらの汗かも
分からず、しばらくはじっと、
サウナのような時間を楽しんだ…

っはあ…はあ…♡
んっ…ちゅう…
じゅるるるるっ♡

私の溶け切った熱々の蜜壺に
肉茎を挿入した瞬間に、そんな愚行は
理性と共に消し飛んだ



苦し紛れに一度だけ
抜こうともがいたのか…

しかし目の前の熟れた雌に
抗えずに…

私の一番奥までちんぽを
挿しこんだ瞬間…

爆発…
♡



んは…ああ♡
少し早いが…♡
いっぱい出たな…♡
えらいえらい…♡

もう一度だ…♡
今度はしっかり…

だが…
途中で腰を引くのは…
よくないぞ…♡

『おあずけ』を
喰らってるようで…
もどかしく
なってくる…♡

一番奥に…♡

それからのことは
あまり記憶が定かでないが…



震える尻肉に
叩きつけられる腰

『もう知りませんよ』

とためらいながらも
言った彼の言葉を皮切りに

私の求めていた肉棒が蜜壺に
突き沈み込まれる……

たまらず声が出る。
犬のような喘ぎ声……

自分の雄を誘うように
下品なほど肥大した乳
交互に揺れ：

内側から腹筋を
捲られるような感覚

しかし、

噤んだはず口は、
いくつも年下の肉棒の快楽に
あっけなくこじ開けられ

何度も何度も
彼を求め：

震えながら啼いて

鳴いて

哭いて

彼の拙いながらも必死な腰振りに膂肉を締め上げて

必死にその子種を
欲しい…欲しい…と
おねだりをする…

一度、抜かれそうになるほど
必死に尻を相手の腰に伸ばす…

離される感覚は
切なく、甘えるような
声を出してしまう…

けれど
次の瞬間には、

先に出されていた精液を
押しやりながら、子宮口の一歩奥に
子作りノックをされる…

その衝撃を
全身で受けながら、
切なさを一気に満たされ、
何度も何度も絶頂し…

耐えられずに、

自分を彼の雌だと
実感しながら…

その場に倒れ伏せて
多幸感に打ち震える…

暫くしてから、
顔を上げれば…

そこに映るのは

余裕のない表情の
可愛い『ご主人様』の顔…♡



そして…
待っていたソレが…
私の最大の絶頂を
引き連れて…

やっ
て
来
る
…
♡



満足した…♡
おかげで発情期は
乗り越えられそうだ…♡

では…ここからは愛する者同士の
睦合いをしようではないか…♡

匂い付けの為に
最低でも十回はしてもらう♡

すまないが耐えてくれ♡

ええ…っ!?

そんな
無理で

いつまで
使つとる気だにや…
劇薬だったか…

—7時間後…風呂場前。



奥付

モンスターガール グランド・ツアー アヌビス編

発行者 : 山羊の豚足
発行 : 山羊家豚足亭
発行年月日 : 初版、コミックマーケット96
2019年8月11日
連絡先(mail) : yagi.no.tonsoku@gmail.com
印刷所 : 協友印刷株式会社 きょうゆう出版 様
TwitterID : @yagi_no_tonsoku



山羊家豚足亭
YGKTSI